

## 第2章 第2次推進計画における取り組みの成果と課題

### 1 家庭・地域における取り組みの成果と課題

#### (1) 取り組み

- ブックスタート事業<sup>※2</sup>の実施（平成14年から継続）
- セカンドブック事業の実施（平成23年から継続）
- サードブック事業の実施（平成21年から継続）
- おはなし会などの読書イベントへの参加

#### (2) 成果

健康増進課や学校教育課と市立図書館が連携し、子どもに本を贈るブックスタート及びセカンドブック、サードブック事業は、子どもと本の出会いをつくと同時に、本を通して家族が触れ合うことのできる良い機会となっています。

#### <ブックスタート配布実績>

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
対象人数	238人	212人	194人	172人	189人
配布人数	186人	177人	164人	154人	169人
配布率	78%	83%	85%	90%	89%

配布方法の見直しにより、第1次推進計画の5ヶ年の配布率平均79%に比べ、第2次推進計画期間中の配布率平均は85%で6%の増加となり、より多くの家庭に本を届けることができています。

#### <セカンドブック配布実績>

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
対象人数	251人	210人	275人	239人	229人
配布人数	238人	167人	258人	235人	220人
配布率	95%	80%	94%	98%	96%

第1次推進計画期間中の配布率平均は94%、第2次推進計画期間中の配布率平均は93%です。（平成28年度を除くと96%）

※2 赤ちゃんと保護者の心触れ合うひとときを、絵本を介してつくるよう支援する事業。3ヶ月児に絵本を1冊贈るとともに、保護者に読み聞かせの啓発を行っている。継続事業として、セカンドブック事業（3歳児）、サードブック事業（小学1年生）を実施。

### <サードブック配布実績>

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
対象人数	292人	269人	294人	253人	231人
配布人数	292人	269人	294人	253人	231人
配布率	100%	100%	100%	100%	100%

#### (3) 課題

- ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業による、家庭における読書活動への効果を検証し、読書の習慣化に繋げることが求められます。
- 保護者への家庭における読書の啓発が必要です。
- テレビやゲーム、スマートフォン等の長時間使用は、発達段階である子どもの身体の健康や心の健康に弊害を及ぼす可能性が示唆されており、かつ生活リズムの乱れや変化によって読書活動への影響も懸念されます。
- ゲームやスマートフォン等で子どもの注意・関心をひく保護者の行動が多く見られ、子どもの電子メディア接触の低年齢化、長時間化による読書活動への影響が危惧されます。
- 「山梨市子ども読書活動推進計画に関する調査」（以下「推進計画調査」という。）によると、公民館での読書のおたよりの配布は、平成25年の調査時には半数以上の館で配布していましたが、令和2年の調査では1館に減少しています。読書行事を開催した館も1館に留まっており、公民館における子どもの読書活動の検討が必要です。

## 2 保育園・幼稚園・児童センターなどにおける取組の成果と課題

#### (1) 取り組み

- 読み聞かせやおはなし会の実施
- 年齢に応じた図書の実施

#### (2) 成果

令和2年推進計画調査の結果によると、読み聞かせは7割の園でほぼ毎日実施されており、学童クラブ・児童センター・たち<sup>※3</sup>においても約5割の施設で実施され、日常的に読書の機会が設けられています。

※3 主に乳幼児をもつ親と赤ちゃんが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で話しをしたり、一緒に遊んだりしながら、交流を図るための場所。

つどいの広場たち（山梨市役所内）と、つどいの広場たち牧丘（牧丘支所内）がある。

また、所蔵図書のほか、市立図書館からの定期巡回団体貸出<sup>※4</sup>の図書も置いてあるため、子どもたちの身近に図書があるという環境が整っています。

### (3) 課題

- 保護者への家庭における読書の啓発が必要です。
- 市立図書館やボランティアと協力し、読書行事の開催増加が望めます。
- 施設によっては古い図書や傷みが激しい図書が多いため、図書や大型紙芝居等を借り受けたいが、図書の運搬に係わる人員が不足している。

## 3 学校における取り組みの成果と課題

### (1) 取り組み

- 学校図書館利用のオリエンテーションの実施
- 読み聞かせや朝の読書、一斉読書の実施
- 図書集会など読書推進行事の実施
- 親子読書や家読<sup>うちどく</sup><sup>※5</sup>の推進
- 推薦図書や教科書関連図書等のブックリスト作成
- 土曜図書館<sup>※6</sup>開館（後屋敷小学校）

### (2) 成果

令和2年推進計画調査によると、朝の読書は、小学校、中学校、高校とすべての学校で行われています。令和元年読書活動調査による、1ヶ月間の読書量が1冊の21%の子どもは、朝の読書による読書量と考えられます。普段、読書をしていない子どもにとって、本を手にする貴重な機会となっています。

図書委員会では、推薦図書リストの選定や図書委員会だよりの作成、図書委員による児童・生徒への読み聞かせなど、各校さまざまな活動を行っています。同年代である図書委員に啓発されることは、本に関心を抱くきっかけとなり、今後も工夫した図書委員会活動の継続が望めます。

---

※4 市立図書館が、保育園、幼稚園、認定子ども園、児童センター等に、対象となる子どもの年齢に合わせた本を毎月（貸出1ヶ月間）巡回して貸し出すサービス。他に、施設等の団体利用登録者が市立図書館で図書を選び、1ヶ月間借り受ける「団体貸出」サービスもある。

※5 家族みんなで読書することで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動。子どもを中心に家族で同じ本を読み、感想を言い合うなど。

※6 図書を活用した学習活動や読み聞かせ等を行い本に親しんでもらうことを目的として、土曜日に学校の児童及び保護者を対象に図書館を開放。

後屋敷小学校においては、土曜図書館を開放し多くの児童が利用しています。令和元年度には、親子巡回読書<sup>※7</sup>など多彩な取り組みが認められ「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けました。

山梨小学校は、令和元年8月に千葉県で行われた第35回関東地区学校図書館大会において、分科会『豊かな心を育む学校図書館』で山梨県の代表として「豊かな心を育む読書活動と図書館の活用」の取り組みを発表しました。

### (3) 課題

- 朝の読書から派生し、自身の読書の習慣化に繋げていくことが課題です。
- システム整備による図書資料のデータベース化が必要です。

## 4 市立図書館における取り組みの成果と課題

### (1) 取り組み

- ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業の実施
- おはなし会及び講演会など読書イベントなどの開催
- 児童レファレンスサービス<sup>※8</sup>の実施
- 図書館見学や職場体験などの受け入れ
- 定期巡回団体貸出の拡充
- 図書館ボランティアとの協働

### (2) 成果

親子で楽しむことのできる絵本のコンサート形式のイベントや、中高校生に人気のある作家の講演会、原画展など、各年代に応じた事業を開催しました。

ブックスタートをはじめ、これらのさまざまな事業を通して幼年期から本に触れる機会を設けています。

生涯にわたり読書に親しむことのできる環境づくりに取り組んだとして、令和元年度に「子供の読書活動優秀実践図書館」の文部科学大臣表彰を受けました。

---

※7 親子で一緒に読書を楽しみながら触れ合いを深めてもらう目的で実施。学級ごと10人以下のグループに分け、1組の親子が3日以内に読み次の人へ回す。また、本と一緒に「感想ノート」を手提げに入れ、読んだ本の感想や絵などを自由に記入。

※8 利用者からの調査依頼や質問に対して、必要とする情報（回答）や情報源を効率よく入手できるように支援するサービス。

平成 13 年度からスタートした、図書館ボランティアによるおはなし会については、平成 28 年度のリニューアルオープン後からはボランティアの協力のもと開催回数を増やし、子どもや保護者が本に親しむ機会をより多く設けることができました。

<おはなし会種類>

おはなし会 名称	ボランティア グループ名	開催頻度 (毎月)	対象	開始年
チェリー	くれよん	第 2 火曜日	乳幼児	H13
くれよん		第 4 土曜日	幼児～小学低学年	H16
ぐれーぷ	ぐれーぷ	第 2 日曜日	幼児～小学低学年	H28
ぐれーぷ		第 4 火曜日	乳幼児	
ぴーち	ぴーち	第 3 日曜日	親子 (英語おはなし会)	H29

<おはなし会開催状況>

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度
開催回数	9 回	17 回	46 回	51 回	45 回
参加人数	121 人	258 人	731 人	693 人	752 人
平均参加人数	13 人	15 人	16 人	14 人	17 人

※平成 27 年度及び平成 28 年度は、新図書館建設のため両年とも開館は5ヶ月間

また、平成 22 年度から継続している定期巡回団体貸出は、保育園など各施設に毎月 30 冊の図書を貸し出しています。日々の保育の中で読み聞かせに使われ、園の読書環境の整備に大きな成果があります。平成 28 年度からは児童センター、令和元年度からは学童クラブに対象を広げ、充実を図りました。

<定期巡回団体貸出受入施設数>

H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度
11	14	14	13	17

中高校生向けサービスとしては、平成 28 年度の図書館リニューアルに伴い、文学書を中心に、職業選択の助けになる図書など、青少年が求める情報を提供することができるよう、大人向けコーナーに隣接する形でコーナーを新設しました。

### (3) 課題

- 子どもに向けた読書などの情報公開や発信が不足している。
- 障害をもつ子どもや母国語が日本語でない子どもも利用しやすい環境づくり及び支援が望まれます。
- 保育園や学校などの関係機関への、読書行事開催の支援及び情報提供が求められています。
- 中高校生世代が図書館に立ち寄りたくなるコーナーや催しを展開していくことが望まれます。
- 定期巡回団体貸出の拡充
- 団体貸出の増加による、図書館内における貸出用図書の減少